

※学校評価から見た学校経営の重点と努力内容 (492名/562名)

○温かみのある学級づくり

(6)学校に行くのは楽しいと思う C+D 7.3P 36名 → A+B100%を目指す

(11)いじめられたり、無視されることなく安心して活動できている C+D 1.4P 7名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

(2)授業はわかりやすいと思う C+D 8.3P 41名 → 授業改善を進める

(3)授業では、自分の考えを持つことができた C+D 8.9P 44名 → 授業改善を進める

(4)授業では、北星トークなどで自分で考えたことやわかったことを表現することができている C+D 15.6P 77名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

(7)学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる A+B 94.5P 467名 → A+B100%を目指す

(8)生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる A+B 80.5P 397名 → A+B100%を目指す

(15)さわやかな挨拶ができている A+B 90.4P 446名 → A+B100%を目指す

項目	<分析> ○成果、▲課題	<改善策> □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
温かみのある学級づくり	○ 「学校に行くのは楽しい」という肯定的な回答が92.7%であった。	<ul style="list-style-type: none"> □ 常にアンテナを高くして生徒の状況把握、情報共有、相談、即時対応する。「楽しくない」と回答した生徒に寄り添い状況改善を目指す。 ■ 「人間関係作りのための北星タイムをより充実させ、生徒同士が認め合える場の設定を定期的に設けるなどしたらよい。授業以外の様々な場面で生徒間、生徒教師間の関わりを促進していく。Q.Uの結果も活用していく。
	○ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できている」についてはA+B評価の回答が生徒では98%を越えている。	<ul style="list-style-type: none"> □ あくまでもアンケート時点での状態であるということを忘れず、引き続き、きめ細かく生徒の様子を見守っていく。
	▲ 生徒アンケート「自分の周りにいじめやからかいがあったときには、どのように(誰に)知らせればよいか知っている」について、前期と比べC+D評価回答が8.8ポイントから6.5ポイントに下がっている。(人数では46名から32名)となっている。一定の改善は見られたものの、R6年後期のC+D評価回答が6.1ポイントであることを考えるとまだ、取り組みが十分であるとは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> ■ いじめアンケート実施時に、生徒に「いじめの対応」について文章の周知と口頭での説明の両方を今後も実施していく。くり返し伝え続けること、日頃からの生徒とのコミュニケーションを大切に、異変や困りごとに気づいたり、生徒にとって必要な時に物理的にも精神的にも近い距離でいられたりできるように心がける。
満足感のある授業	○ 「授業がわかりやすいと思う」は、生徒の肯定的回答が93.3%→91.7%と変わらず高い結果になっているが、「よくあてはまる」は31.2%→29.4%と減少している。生徒の授業についてのアンケート「授業の内容はよくわかる」は、全教科を通してみると肯定的回答が89.6%→89.1%と少し減少している。	<ul style="list-style-type: none"> □ すべての生徒の「わかった」という思いや資質・能力の育成につなげるために、子供主体の授業をより意識し授業改善に取り組んでいく。実践を教科部会等で共有することや要請訪問を活用することで検証・改善を繰り返していく。
	▲ 生徒の授業についてのアンケート「自分の考えをもち、伝え合うことができる」は、全教科を通してみると肯定的回答が87.3%→88.0%と少し増加している。学校教育活動についてのアンケート「授業では、自分の考えを持つことができた」は、生徒の肯定的回答が92.8%→91.8%と変わらず高い結果になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「北星トーク」のパネルを活用し、重点項目①②を意識して授業改善に取り組んできた。協働的な学習の内容をより充実させるために、目的の明確化や話す内容の焦点化をしていきたい。今後も各教科部会の充実を意識した取り組みを中心に、伝えたい課題の設定や生徒がより深い学びに向かうしかけ等を工夫していきたい。また、教科による差や学年・学級による差も見られるので、各教科の実践共有などを通して学校全体での取り組みも意識していきたい。
	○ 生徒の授業についてのアンケート「道徳の授業では自分の考えをもち、伝え合うことができる」は、肯定的回答が93.4%→94.2%と変わらず高い結果になっている。また、学校教育活動についてのアンケート「道徳の授業で生徒に自分の考えを持たせ、伝え合う場を設定するよう努めている」は、職員の「よくあてはまる」が37.5%→55.8%と増加している。	<ul style="list-style-type: none"> □ 校内研修を経て、道徳授業の作り方について共通理解をすることができた。生徒の実態に合わせた授業展開や発問の工夫について、職員間で互いに情報を共有する環境をより充実させ、授業づくりや教材について学び合えるようにしていきたい。
心と体の教育の推進	○ 「学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる」の肯定的回答は、94.5%で前期より微増した。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特に1年生は、前期の平均よりも5.1%高くなっており、中学校での生活にも慣れ、運動会や合唱コンクールに意欲的に取り組んでいたことがうかがえる。今後も全員で行事に参加できる雰囲気継続していきたい。
	○ 「学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる」の「あまりあてはまらない」回答は、前期6.9%で後期は4.9%だった。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特活と協力し、実践を通してそれぞれの学年の自覚を芽生えさせることができた。2年生については、さらに、来年度に向けて最学年として、学校全体を担っていく自覚を芽生えさせるために、リーダー会などを活用し意識づけを行っていく。
	▲ 「生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる。」の肯定的回答は、80.5%だった。前期の79.1%より微増だが、目標には届いていない。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 取り組むべきことを明確にし、誰もが取り組めるように支援していく。また委員会での振り返りが弱いため、次につながるような話し合いをしていくよう支援し、生徒総会でも前向きな提案や発言ができるよう伝えていく必要がある。
	▲ 学校教育活動についてのアンケート「家庭学習の習慣が身につけてきている」は、生徒の肯定的な意見が79.5%→74.5%と少し減少している。また、否定的な意見が1年生が3.5%→11.7%、2年生が27.5%→33.5%と増加している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 家庭学習の習慣を確立できていない生徒が増えてきている。家庭学習の習慣や自ら学習に向かう姿勢を身につけられるよう、学年の実態に合わせた課題の設定や生徒一人ひとりに合わせた支援(内容の助言や他の生徒の取り組みの紹介等)を行っていく。
	▲ 学校教育活動についてのアンケート「読書が好きである」は、生徒の肯定的な意見が70.6%→64.3%と少し減少している。しかし、保護者の肯定的な意見が44.6%→46.4%と少し増加している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校生活や授業で「読書が楽しい」と思える取り組みを継続していく。他の白山市共通の図書館アンケート結果では、朝読書以外に本を読まない生徒が50%になっていることから、朝読書の時間を確保し、さらに授業などで読書に触れる時間も継続して作っていききたい。
▲ 「日頃から安全に登下校ができるよう努めている」生徒のC+D評価が1.4ポイントなのに対して、保護者は11.8ポイントと開きが大きい。生徒自身の自覚の無さが、地域からのご意見がなくなる原因のひとつだと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引き続き、様々なアプローチで交通マナーの啓発、指導を行っていく。具体的には個別指導、学年集会、全校集会、放送、学校だより、生徒指導だよりの活用を行っていく。 	